

神権の誓詞と聖約についての理解を深める

御霊により聖められてその体が更新される（33節参照）

天の御父の約束について、大管長会のヘンリー・B・アイリング管長は、次のように説明しています。



「自分自身の生活や人の生活の中でその約束が果たされるのを、わたしはこれまで見てきました。ある友人は伝道部会長を務めていました。任期中毎晩、次の日に働く力があるだろうかと心配しながら、2階の寝室までやっとの思いで階段を上がっていました。ところが翌日の朝を迎えると、力と気力を回復していました。年老いた預言者が主イエス・キリストと回復された福音を証する度に新たに力を得ている様子を皆さんも見てきたと思います。これは信仰をもって神権の務めを果たす人々に与えられている約束な

のです。」（ヘンリー・B・アイリング「信仰と神権の誓詞と聖約」『リアホナ』2008年5月号、62）

アロン神権とメルキゼデク神権を得ることに忠実である（33節参照）

「これら二つの神権を得〔る〕」ことに忠実であることは（教義と聖約84：33）、アロン神権とメルキゼデク神権の儀式を受けてそれに伴う聖約を忠実に守り続けることによって得られる力と祝福を得るということです。預言者ジョセフ・スミスは、人は「すべての戒めを守り、主の宮のすべての儀式に従う」ことによって、神権のすべてを得ることができると教えています（『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』、418）。

男性の場合、これには神権が授けられ、神権の職に聖任されることも含まれます。

召しを尊んで大いなるものとする（33節）

教義と聖約58：27–28；107：99–100

召しを受け、主の救いの業に携わる機会

十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード会長は、次のように教えています。



「自分の召しを尊んで大いなるものとするために働くとき、わたしたちが奉仕をする人々に対して最善の方法で問題を解決できるように、御霊による靈感を求めてください。わたしたちには指導手引きがあり、その指針に従うべきです。しかし、その枠組みの範囲内でも、考え、創造力を発揮し、個人の才能を活用する機会には存分にありません。自分の召しを尊んで大いなるものとするという指示は、尾ひれを付けて物事を複雑にしなさい、という意味ではありません。また、創造力を発揮するという言葉は、

必ずしも膨らませるという意味を持つのではなく、往々にして簡素化することを指しています。」（M・ラッセル・バラード「おお、賢くありなさい」『リアホナ』2006年11月号、18–19）

天の御父が持っておられるすべて（38節参照）

教義と聖約76：55－60；81：6

十二使徒定員会のロナルド・A・ラズバンド長老は、次のように分かち合っています。



「天の御父がいらして、イエス・キリストが御父の独り子であられることを知ることとは、今日わたしたちが立っている場所だけでなく、聖約の道のはるか先を見ているということです。それは、わたしたちが御父が持っておられるすべての相続人であることに感謝するという意味です。数え切れない王国が御父の王国であり、わたしたちのものとなり得るのです。救い主は約束されました。『あなたは最後まで忠実であれば、わたしが父の家に用意した住まいにおいて、不死不滅と永遠の命の冠を受けるであろう。』」（Ronald A. Rasband, “The Divine Destiny of His Daughters”

[BYU Women’s Conference, Apr. 30, 2021], broadcasts.ChurchofJesusChrist.org)